

## I 学校の概要

### 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業

### 高松市立国分寺中学校

#### ◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
7学級 211名	7学級 228名	7学級 220名	5学級 16名	26学級 675名

○教員数 47名

#### ◆学校の特徴

本校は現在、校訓「自主・独立・協同」のもと、学校教育目標を「生徒の生涯を見すえた組織的な教育の展開」と定め、「チーム国中」を合言葉として、教職員が一丸となった教育活動の展開をめざしている。

生徒は、一人ひとり様々な家庭環境・社会環境の中で成長してきており、その保護者を含めて行動様式や価値観が実に多様である。そうしたことが、集団を形成した際に、多様で豊かな集団の形成という長所となって表れる一方で、生徒間でのトラブルに繋がることも少なからずある。過去には、生徒間の繋がりが希薄になり、生徒指導上の問題が多数顕在化したこともあった。現在は、生徒一人ひとりに寄り添う生徒指導の徹底により、多くの生徒が生徒同士及び生徒と教職員間で良好な関係をもつことができています。

## II 研究主題等

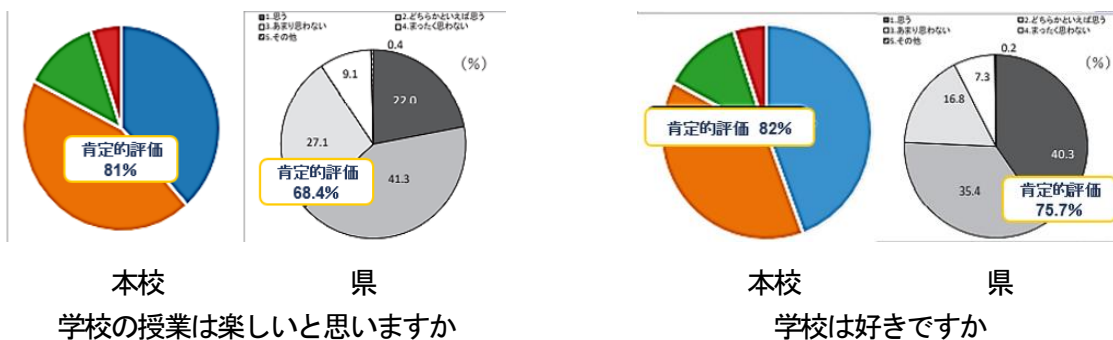
研究主題

なかまとともに学び合い、未来を拓く生徒の育成 ～国中協同学習を通して～

#### ◆研究主題設定の理由

平成30年度より、人権・同和教育を基盤とした「なかまづくり」の取組のうえに、学びの共同体の理念を参考にした『国中協同学習』の実践をスタートさせた。コロナ禍の事実上一時中断状態の際には理論の共通理解に重点をおき、全教職員が共通理解した上で、令和4年度からは学び合いに適した学習形態と、研究活動を行っている。

『国中協同学習』がめざすのは「誰一人取り残さない学び合い」である。生徒アンケート結果【図1】からは、「学校が楽しい」「授業は楽しい」と8割の生徒が答え、県平均を上回った。その一方で、クラスの約6人がそうではないと感じている現実がある。静かに授業を受けているが、学びに向き合えていない生徒、一人で最後までやり遂げようとする粘り強さには課題がある生徒も巻き込み、どの生徒にとっても魅力的で誰もがいきいきと参加できる授業改善や教育活動を学校全体で行うことにした。

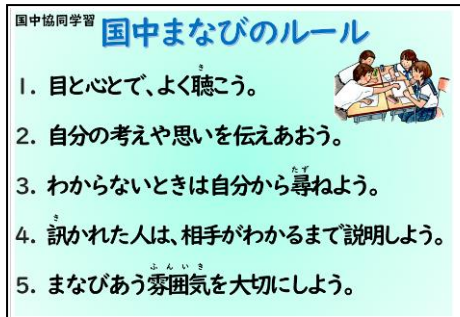


【図1】生徒アンケート結果(R4.3月実施)と県学習状況調査質問紙結果(R4)

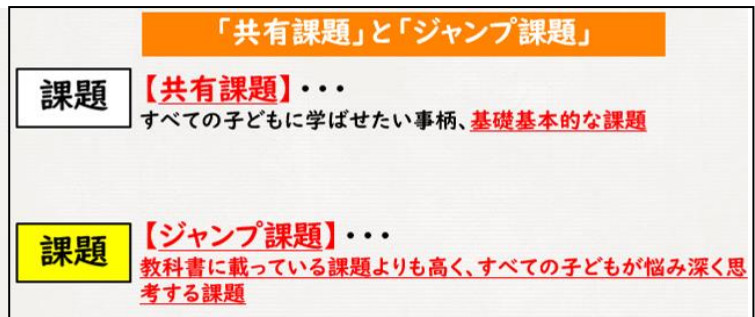
◆研究内容及び方法

(1) 国中協同学習の展開

- ・ 「国中まなびのルール」【図2】を意識した、生徒が主体的に学び合う授業展開の工夫
- ・ 学び合う雰囲気づくりのための授業環境の徹底
- ・ 学習意欲の高揚、教科の本質に迫ることのできる学習課題の設定【図3】



【図2】国中まなびのルール

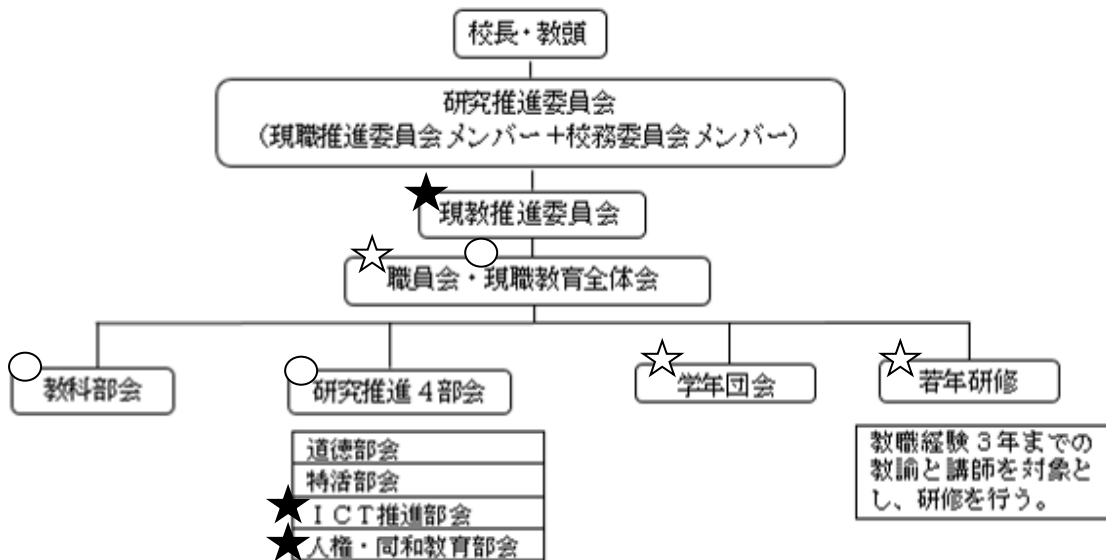


【図3】学習課題の設定

(2) 研究推進4部会による研究推進

年度初めに研究組織を作り、教育計画【図4】に明記し、確実に研修の時間を確保

- ・ **道徳部会** 全教員で行う計画的な道徳の実践（学期に1回のローテーション道徳）
- ・ **特活部会** 学びのコミュニティづくりの基盤となる特別活動の実践
- ・ **ICT推進部会** ICTを活用した魅力ある授業づくり
- ・ **人権・同和教育部会** 3年間を見通し、系統立てた人権・同和教育の実践



★の会は時間割に組み込んで週1回実施、☆の会は月に一回実施、○の会は隔月実施

【図4】研究組織図

(3) めざす教員像実現に向けた計画的な教職員研修の実施

- ・ 月1回の現職教育全体会の実施
- ・ 年3回の公開授業期間の設定（7月、10月、2月）
- ・ 年3回の要請訪問の実施（7月：道徳、9月：人権・同和教育、10月：教科）

### III 研究実践

#### ◆指標設定と達成に向けた取組

(国分寺中学校独自、生徒アンケート)

- ・ 普段の授業では、学級と友達との間で話し合う活動をよく行っている。

指標「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



(県学習状況調査、学校質問紙、教師アンケート)

- ・ 普段の授業で、生徒の学び合う場を取り入れていますか。

指標「①よく行っている+②どちらかといえば行っている」の合計



学校全体での実践と共通理解

4月に全体研修を行い、国中協同学習の実施に向けて全教員に意識してほしいことを伝えた。6月の公開授業では、前年度から在籍する教員が公開授業を行い、異動してきた教員が国中協同学習の具体を理解することに役立てた。また、学びの共同体への理解を深めるため、指導者として協同学習を実践していた元校長先生をお呼びして参観と指導をしていただいたり、「新版 学校を改革する(佐藤学著)」を全教員に配布したりした。



授業開始5分以内にペアに、5分に1回はペア活動を

1つの授業に1回はグループ活動を



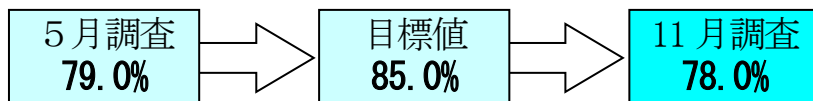
机をぴったり合わせ、スムーズに学び合いができるよう、ロッカーの使い方なども共通指導している。



授業中教師が座ると生徒の表情がよく見え、声のトーンを落として授業を進行できる。また、電子黒板を使用する際にはリモコンを利用することで、電子黒板から離れることができ、必要な時は生徒の席の近くに行くことができるようになった。

(国分寺中学校独自、生徒アンケート)  
 学級では安心して自分の意見を言うことができますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



生徒が安心して自分の意見が言える雰囲気づくり、なかまづくりを推進するために、以下のことを行った。

①ホワイトボードセットを教室に用意

ホワイトボード、マーカー、イレーサーを班の数用意し、教室に常備した。級訓や学校行事のテーマ決めなどの学級会、教科での話し合い時にスムーズに利用することができた。全体で意見を言いにくい生徒も班での話し合いでは意見をつぶやけたり、言えなくても書くことで意見を表現できたりした。

②研究推進4部会

各部会で話し合い、それぞれの部会が、国中協同学習の視点で授業改善、授業実践を行った。教科の授業以外の学校生活全般でも国中協同学習を意識した取組を行った成果か、どの授業でも生徒同士がスムーズに楽しそうに話をするようになった。

**1年道徳「銀色のシャープペンシル」**

【共有の課題】理科室で「僕」はどうして嘘をついたのか。

【ジャンプの課題】「僕」を卓也の家に向かわせたものは何だろう

**道徳部会**

課題設定の工夫、ペア、グループ活動の推進

**特活部会の取組(2年生)**

未来を拓く力  
(伝える・自分を知る)

職場体験学習の発表を  
1・2年生に向けて行います。

共有課題

職場体験学習の発表内容を考えよう

ジャンプ課題

職場体験学習の発表内容をより分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか考えよう

④ 他のグループの意見を参考に再考する

- 一人が残り、自分のグループのまとめ方について説明する。
- それ以外のメンバーは他のグループのまとめ方について、移動して聞きに行く。
- 自分のグループに戻り、発表内容を見直す。

**特活部会**

学年・学校を超えた交流、KJ法活用

**ICT部会の取組**

**ICT推進部会**

学習支援ソフトやGIGA端末を利用した学び合い

**人権・同和教育部会の取組**

3年 結婚差別について考える

自作VTRの視聴

ロールプレイ

ロールプレイをすることで、友達との対話が活発になり、学び合いができていた。

**人権・同和教育部会**

自作VTRの視聴、ロールプレイによる話し合い

◆特徴的な取組

①研究授業について



4. Let's Talk: 電車の乗りかえー浦市内二

3 わらい  
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文法を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

4 おおまかな流れ

	学習内容・活動	学習形態
1	共有の課題 「英語で乗り物での行き方をたずねたり、答えたりしよう」 モデル対話で使われている表現について、意味や使い方を確認する。 個人でデジタル教科書の読み上げ機能を使って、ペアでモデル対話を繰り返し読み、電車の乗りかえに必要な表現に慣れ親しむ。	一言 個人 ペア
2	課題の追求 Tool Boxの表現を確認し、道案内で使える表現を増やす。 ペアで STEP3 のそれぞれの状況のやり取りを考え、ワークシートにメモを書く。 グループ内でメモをもとに対話を発表し合う。	一言 ペア グループ
3	ジャンプの課題 ここで人間本駅から、香川県の観光地への行き方を詳しくたずねたり、答えたりしよう。 ALTのJ先生が実際に行きたい場所の情報を示し、その状況でどのように連絡を説明するかロールプレイをペアで考え、グループ内で発表する。 グループ内で発表し合い、良かった点や改善点について、意見交換する。	ペア グループ
4	まとめや振り返り いくつかのペアに発表してもらい、全体で共有する。 重要表現を使い、積極的に伝えることができるかどうかを確認する。	一言 個人

協同学習観察シートの記入について

国中協同学習観察シート ○○○○年○月○日(○) ○時間目  
第○学年○組 (教科:△△ 授業者:○○○○)

○授業の流れ(1コマ 2分30秒)

授業の進め方 (1コマの 流れ)	個人 対話 グループ	共有の 課題 (全体) 共有の 課題	教師の動き	生徒の動き			
				Aさん	Bくん	Cさん	Dくん
①	○		○○を指せ、ペアで○○について知っていることを意見交換させる	Bくんに「何ぞのわかる？」と話しかける	Aさんからの問いに「わからん」と言う	机にふせて寝る	何もしない
②							
③							
④							

【 授業参観の視点 】

- だれと何でつながったか。
- 生徒の学びが、どんなときに途絶え、そして、どこで戻ったのか。
- 生徒は、わからないところを友だちに聞いているか。
- 教師は、どこで、どのような関わりをしたのか。

↑公開授業者は授業デザインを作成し、生徒の学びにそって授業を進める。

参観者は担当する4人の学びの事実を観察シートに記入し、授業協議会で共有する。

※授業デザインと協同学習観察シートは先進校視察時の資料を参考に本校に合わせて編集して使用している。

誰もが夢中になって学び合える授業協議会に…

授業の良し悪しを(評価)し、(助言)するのではない  
どこで学びが成立したのか  
どこで学びが停滞したのか  
どこに学びの可能性があったのか

教室の学びの事実から学び合う授業協議会を実現する必要がある  
貴重な学びの場を提供してくれた授業者に対して感謝し、その厚意に敬愛の情を示すため…  
誰もが一言は発言する



↑「学校を改革する」より抜粋した資料

↑この字で行う授業後の協議会の様子

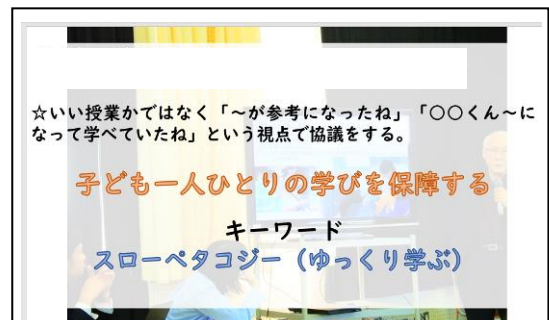
②県外視察について

学びの共同体研究会HPを参考に、県外の先進校へ視察に行き、校内研修会で報告会を行った。

参観時のチェックポイント

○子どもが分らうとして聴く姿があった。( )  
○子どもが友達に関心を寄せていた。( )  
○子どもがわからないところをたずねる姿があった。( )  
○子どもが活動する時間が、授業の8割ほどであった。( )  
○学ぼうとするが、つながらない子どもへの手立がされていた。( )

生徒の発表を教師が言い直さない



学びの学習過程

「つかむ」…導入で学習意欲を高める。  
「さぐる」…実際に試行錯誤し、自分の課題を明らかにする。  
「ふかめる・ひろげる」…グループ活動を通して、思いや考えの付加・修正・強化をする。  
「つなぐ」…自己の学びを実感させ、次時への興味・関心をもたせる。



報告会の様子

## IV 研究の成果と課題

### ◆研究の成果について

#### 教員の意識向上

R5年6月と11月に実施した教員アンケートでは、①②の問いの肯定的評価の割合が向上した。【図5】学校全体での国中協同学習への共通理解のための研修や授業実践の成果か、コの字型座席を活かす学習内容の工夫をしようとする意識やジャンプ課題設定への意識向上が見られた。

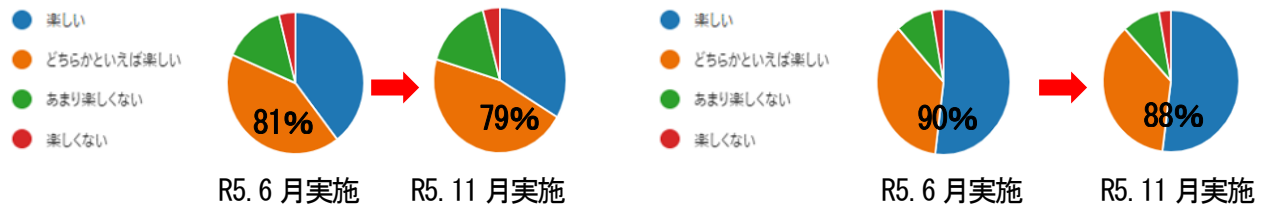


【図5】①コの字型を活かした学習内容を行っている。

②ジャンプ課題を設定することで、生徒が主体的に学び、学びが深まっていると感じる。

#### 生徒の意識継続

R4年度末とR5年11月に実施した生徒アンケートでは、①②の問いの肯定的評価が高評価のまま維持されていた。【図6】国中協同学習による授業実践に対して、生徒が楽しく前向きに取り組んでいる現状がある。

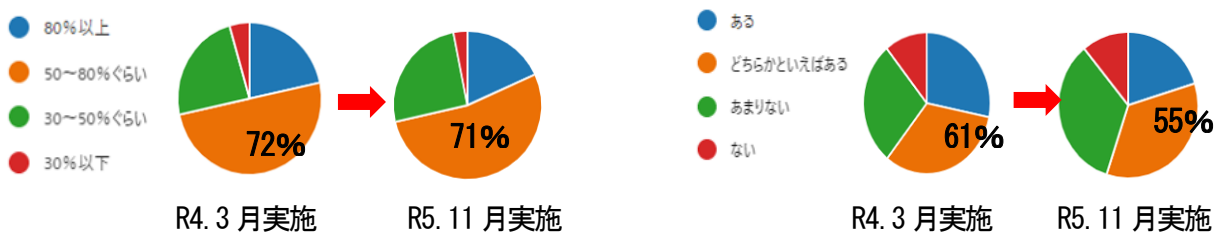


【図6】①学校の授業は楽しいと思いますか。

②授業で友だちと学び合ったり、課題解決に向けて一緒に取り組んだりするグループ活動は楽しいと思いますか。

### ◆研究の課題について

生徒の意欲的な意識や主体的に学ぼうとする態度は育っているものの、授業の内容の理解度や、授業を受けてもっと勉強したいという意欲の向上までは至っていない。【図7】



【図7】①全教科を通じて、授業の内容をどのくらい理解できていますか。

②授業を受けてもっと勉強したいと思ったことはありますか。

国中協同学習の取組が形だけにならないような教員研修の工夫、充実をめざしたい。また、校内参観を日常的に行える雰囲気づくりや、授業の楽しさやグループでの課題解決のおもしろさが生徒の学力向上・なかまづくりにつながる授業実践を教員同士で研究していきたい。